

郡山都市圏パーソントリップ調査

交通まちづくりネットモニター

【平成20年度第1回アンケート結果】

郡山都市圏総合都市交通計画協議会では、交通やまちづくりに関連した項目について、皆様の意見やアイデアを広くお伺いし、今後の郡山都市圏の交通やまちづくりの計画に参考とさせていただきます。ここでは、第1回アンケート調査を実施しましたので、集計結果を紹介します。

調査期間 : 平成20年12月15日～平成20年12月22日(8日間)
モニター数 : 41名(男性19名、女性22名)
回答数 : 30名
回答率 : 73%

郡山都市圏総合都市交通計画協議会では、現在、ネットモニターの皆様から頂いた都市圏の都市交通に関する問題点や都市構造等のご意見を参考にして、将来の目指すべき都市像を検討しております。検討にあたっては、将来像の実現に向けて、より実現性がある施策を展開するため、交通利用者である住民の皆さんの意見や強力の可能性を踏まえたうえで、検討を行うこととします。このため、今後の道路・公共交通・自転車歩行者交通に関する具体的な取り組みのあり方についてご意見をいただき、郡山都市圏の交通の特徴や限られた財政状況を踏まえた上で、今後行っていくべき施策の方向性を決める一助とします。

ここでは、モニターアンケートの調査結果の一部を紹介します。

【問1】 道路の整備に関しては、多くの時間と費用を要します。このため、真に必要な道路の整備を進めることが求められているとともに、一方、「くるまの使い方」そのものを考える動きも見られます。

全国各地で、通勤などの自動車交通が朝夕に集中して混雑を引き起こすことから、時差出勤や相乗り、公共交通や自転車の利用を検討・推進している地域もあります。

郡山都市圏において、このような「くるまの使い方」そのものを考えることについて、あなたのお考えをお書き下さい。

また、限られた財源の中で優先的に取り組むべき課題や施策について、あなたのお考えをお書き下さい。

自家用車の普及により、個人の利便性が高まっているものの、渋滞や環境問題などにも繋がっている。「くるまの使い方」そのものを考えることは良いことである。

車は便利だが、渋滞や健康、環境など、たくさんのマイナス面も持っている。郡山都市圏では、車と公共交通や徒歩・自転車を組み合わせた施策を考えるべき。

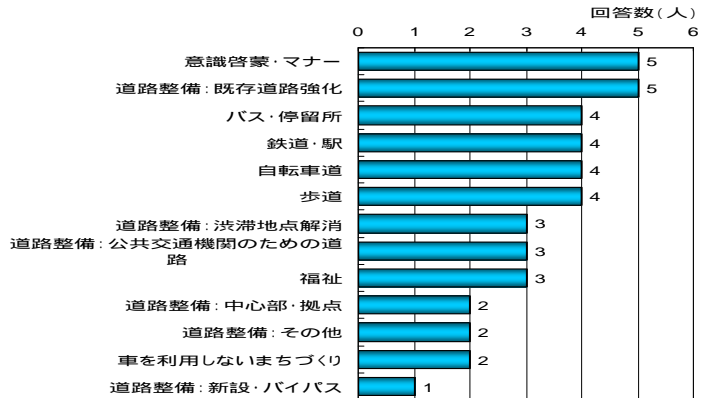
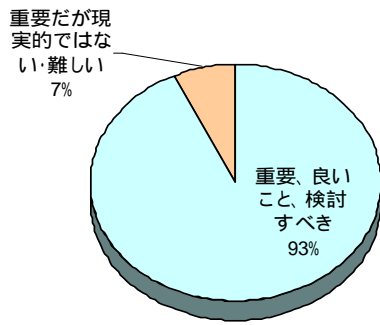
多くの人が公共交通機関を利用することが理想であるが、現状では不便を感じ現実的ではない。

新たな整備には、相当な時間が必要なことや予算の制約があることから、新たな整備のための投資とは別の視点で、既存インフラの負担を少なくするような「くるまの使い方を考える」施策も同時に進めるべきであると思う。

車利用を前提とした道路整備は、ある程度の利便性は保たれているのではないかと。今後は公共交通を利用するための道路づくりやまちづくりに比重を移すべきだと考える。

優先的に取り組むべき課題

「くるまの使い方」そのものを考えることについて



くるまの使い方を考えることは良いことであるというご意見が多いですが、一方で、現在の郡山都市圏のままでは、車無しでは現実的ではないとするご意見も寄せられています。目的や場面に応じて、車とその他の交通手段を組み合わせる施策を考えるべきとした意見も寄せられています。混雑の緩和には道路の改良や整備が必要ですが、財源には限りがあります。交通のマスタープランとしては、必要な道路の整備は行うものの、くるまの使い方そのものを考えることも必要ではないでしょうか。

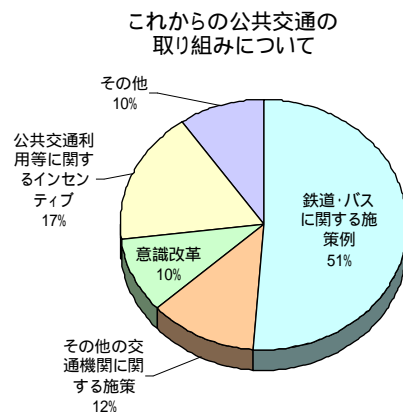
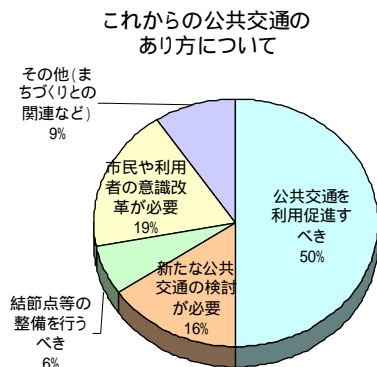
【問2】 公共交通については、必要であるとお考えの方が多い一方で、実際はあまり利用されていないのが実情です。鉄道とバスの利用者は、都市圏全体の3%未満です。公共交通は、これからの高齢化社会を考える場合、自動車を運転できない方の大切な移動手段であるほか、CO2排出量が少ないなど環境面でも優位です。しかしながら、公共交通利用者の減少により、バス路線においては廃止路線が増加しており、維持困難な現状であります。この対応として、地域にふさわしい公共交通のあり方を見直す動きも、全国的に見られています。郡山都市圏において、これからの公共交通のあり方について、あなたのお考えをお書き下さい。また、その実現に向けてどのような取り組みが考えられるか、お考えをお書き下さい。

小型バスの活用、料金とダイヤの見直しなど、利用しやすいバスによる利用者を増やす環境づくりが必要。

バスの本数を増やす、料金を下げる、バス路線の周知など、できることからやっていくべき。

「公共」交通であり、高齢社会への対応や環境対策等の面からも、企業の努力とあわせ「公」が財源や運営に積極的に関与し、維持すべき。

車に対する経済的、時間的負荷の導入。通勤手当支給の見直し。



公共交通は、できることから使いやすい工夫を行うべきとする意見が寄せられています。また、積極的な公共の関与と路線の維持を期待する意見が寄せられています。
また、車の利便性を制限するなど、公共交通利用の動機付けとなる施策アイデアも寄せられています。公共交通をしやすい工夫とともに、多くの人に使うことが活性化に繋がることも踏まえ、できることから順次取り組むことが必要と考えております。

【問3】 自転車歩行者交通については、もっとも身近な移動手段であり、近年の健康志向の高まりなどからも、歩行者の増加が予想されます。一方で、起伏や地形、天候によって行動が左右されるほか、全国共通の課題として歩道空間の整備が十分ではなく、また歩道上の自転車通行によって安全性が損なわれる場面も見られます。
郡山都市圏において、より安全で快適な自転車歩行者交通の確立に向けた整備を行う上で、より優先的に取り組むべき施策について、あなたのお考えやアイデアをお書き下さい。

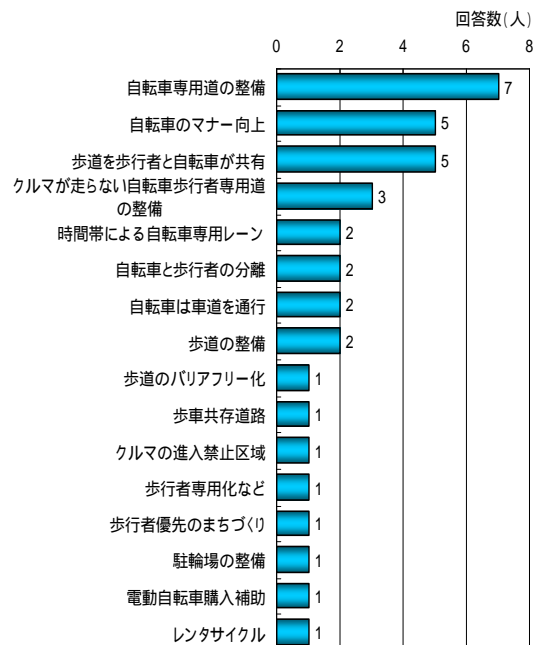
主要道路は、自転車も通れる歩道の拡幅が必要だと思う。車道を自転車が通行することは危険。時間帯を区切った自転車専用レーンなども検討すべき。

自転車は車道を通行すべき。自転車の専用道路を、歩道と車道の間に設けるべき。

自転車や歩行者の優先道路を造る前に、ルールの徹底が必要。マナーの悪い自転車利用者に対する啓蒙が必要。

歩行者優先の「歩いて暮らせるまちづくり」の実現を目指すべき。駐輪場や、安全性の問題などもあり、安易に自転車利用を促進すべきではないと思われる。魅力ある公共交通機関を整えることも必要。歩行者天国化なども行いやすい施策ではないか。

自転車歩行者交通に関して優先的に取り組むべき課題



自転車は、自動車や歩行者の通行量とバランスを考えながら、安全な走行空間を確保すべき意見が寄せられています。

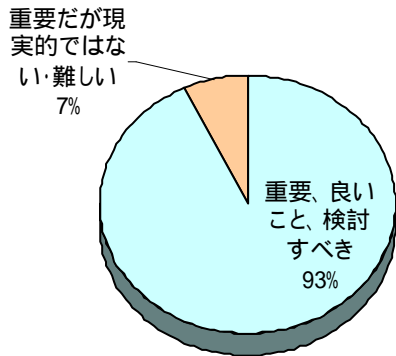
また、市街地の中心部については、車との共存や歩行者優先のまちづくり・みちづくりも求められています。

なお、自転車についてはマナー意識も重要な課題と言えます。

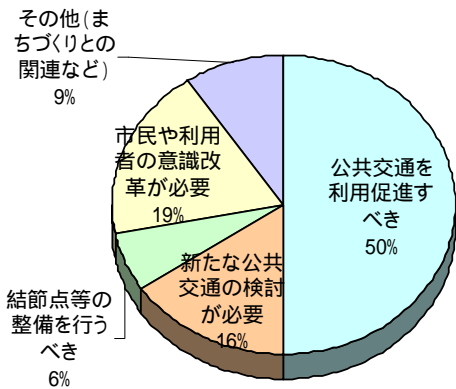
マスタープランでは、特に交通量が多い空間を中心に、自転車や歩行者に配慮したネットワーク形成や空間づくりが必要と考えております。

アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

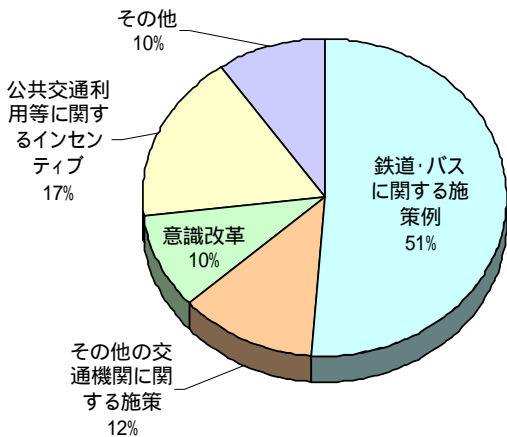
「くるまの使い方」そのものを考えることについて



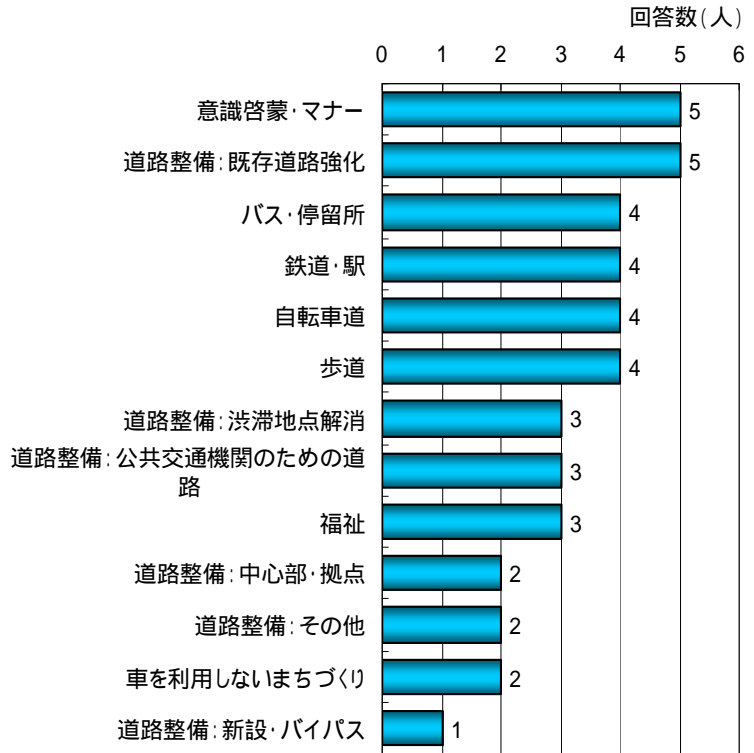
これからの公共交通のあり方について



これからの公共交通の取り組みについて



優先的に取り組むべき課題



自転車歩行者交通に関して優先的に取り組むべき課題

